

優秀賞 宮本義之「揖保川の水害と戦った岸野四郎左衛門と万灯山」

今年もお盆の恒例行事「万灯山」に参加した。

私の住んでいる河内地区（たつの市揖保川町金剛山）では、毎年、お盆の8月14日に「ま〜んどやまお〜くった、い〜ねの虫お〜くった」と 唄いながら松明を持ち、こどもも大人も夕暮れ時の田んぼの畦を練り歩く。

万灯山は、お盆にご先祖の霊を迎える灯りであり、松明の火で畦草を焼き、その煙で害虫を駆除し、秋の豊作を祈願するために行っているが、そのきっかけは、江戸時代に揖保川の水害から田畑を守るために水田の中央四町四方に堤防を築くため村人をまとめ上げ、中心人物となった岸野四郎左衛門の功績を称えるためだと言われている。大洪水により河内地区の田んぼが水につかっても堤防内の稲だけは水害から免れ、来年度の種もみだけは確保できるようにとの思いで堤防を築いたそうである。

河内地区の農家にとって揖保川の水が必要不可欠であるが、一方で大雨や台風による大洪水で苦しめられてきた歴史もある。

毎年、どこかの県で異常気象により大規模な水害が発生している。

今年も、万灯山の火で水害を追い払い、実り豊かな秋がやってくるようにとの思いで夕暮れの土手を歩いた。